

子どもたちが健やかに育つまち

子ども・若者の最善の利益の実現

1億3743万円  
子どもの権利について、児童や保護者に向けた啓発を行うとともに、子どもの意見を聞き取る手法や各施策への反映方法などについて、職員を対象に研修を行います。また、仙台子ども財団と連携しながら、子どもたちが市の施策などに対して意見を伝え、政策を決めるプロセスに主体的に参加できる「子どもいけん広場」を実施するなど、子どもと若者の最善の利益の実現に向けた取り組みを進めます。



仙台子ども財団が主催する「子ども・若者会議」では、子どもたちや若者が参画して意見交換などを重ね、企画の立案や提案の実現に向けた取り組みを行います

子ども・若者の安全な環境と成長を支える取り組み

557億3428万円  
困難を抱える家庭の小学生が安心して過ごせる居場所を拡充した上で、基本的な生活習慣の習得などを目的とした支援を行います。また、セミナーの開催などにより自由な遊びを実現する場づくりへの理解を深め、プレーリーダーの育成を図るなど、子どもたちが安心して自分らしく育つ環境づくりに向けた取り組みを進めます。



プレーリーダーや地域の大人などの見守りの中で、子どもたちが自由な遊びを実現できるプレーパークの活動を支援します

屋内遊び場基本計画の策定

2000万円  
子どもの遊びの環境の充実を図

地域社会全体で子ども・子育てを応援する環境づくり

3億6251万円  
子育ての隙間時間に閲覧できるよう、SNSを活用した子育てに関する情報発信をするなど、現代のニーズを踏まえながら、子育て家庭に寄り添った取り組みを実施します。また、仙台子ども財団と連携し、子どもの居場所を増やすため、地域における多世代交流の取り組みを発信するほか、男性の育児休業取得促進に向けたセミナーを開催するなど、地域社会全体で子どもや子育てを応援する環境づくりを進めます。

いじめ防止等対策推進

14億3091万円  
いじめの未然防止・早期発見・早期対応を図るため、いじめ対策専任教諭を配置するほか、いじめ事案の課題を抱える小学校に対し、退職教員や退職警察官によるいじめ対策支援員を配置し、校内の巡回・指導を行います。「いじめ等相談支援室 S-KET」などの相談窓口において、いじめに悩む児童生徒などへの相談支援を行うほか、社会全体でいじめを防止する意識の醸成に向けた広報啓発などに取り組みます。

不登校児童生徒等支援

7億9574万円  
不登校児童生徒等の社会的自立などに向けた支援を行うため、在籍学級外教室「ステーション」の設置校を、市立小学校は10校から15校に、市立中学校は35校から45校に拡充します。社会福祉上の諸課題に対して専門的な支援を行うスクールソーシャルワーカーを配置する拠点校を40校から70校に拡充し、不登校児童生徒等に寄り添った支援の充実を図ります。

学校における働き方改革の推進

16億579万円  
外部のコンサルタントによる客観的な学校業務の可視化や課題分析を行い、改善施策の実施に向けた移行計画を作成し、教職員の負担軽減を図ります。また、教職員向けの巡回型カウンセリングを行うほか、副校長・教頭が管理職務に注力できる体制づくりのため、学校マネジメント業務について助言などを行う支援員を増員します。

部活動の地域移行

4805万円  
部活動指導の充実や、教職員の多忙化を解消する観点から、単独での部活動指導を担うことができ

るため、本市の魅力の一つである豊かな自然を活用した遊びや、屋外の遊びと連続性を持った遊びが可能となるような施設について、西公園南側エリアを候補地とした基本計画を策定します。

朝の校内遊び・体験の居場所づくりモデル事業

477万円  
小学校の始業前の時間に、学校の施設内で児童が安全に学び、体験活動ができる居場所を開設し、子どもが安心して伸び伸びと育つ環境づくりを進めます。

若者支援と切れ目のない子育て支援

363億3444万円  
若い世代が仕事や結婚、子育てなどについて、具体的なイメージを持ちながら自らの将来を考え、ライフデザインを描くことができよう、子育て家庭との交流を交えたセミナーを開催するほか、若者の意見やニーズを取り入れた結婚支援イベントを通して、結婚を希望する方に出会いの機会を提供

る部活動指導員を配置します。国の委託事業であるモデル校での実践研究を通して、休日の部活動の段階的な地域移行に係る効果的な手法の検討や課題の整理を行います。

指導体制の充実

11億788万円  
複数の教員が協働して学級担任を担うチーム担任制を導入するほか、小学校の教科担任制を拡充するなど、教材研究の時間を確保するとともに、児童一人一人に合った教育活動を行います。

国際的な視点に立った教育の推進

2億7624万円  
児童生徒が多様な価値観に触れ、柔軟な思考を身に付けられるよう、小学校・中学校で一貫して学ぶ英語を使った新教科の検討や開発、試行に向けた準備を行います。また、小学校外国語教育の指導体制の充実を図るため、段階的に全市立小学校に外国語指導助手（ALT）を配置し、国際的な視点に立った教育環境の整備を進めます。

博物館・科学館魅力向上

7027万円  
博物館において、宇和島市との

します。また、家事や育児などに対して不安や負担を抱える世帯に、育児ヘルパーを派遣し、支援を行うほか、就労要件を問わず時間単位で月一定時間まで保育施設などを利用できる事業を実施し、切れ目のない子育て支援の充実を図ります。

産後ケアリフレッシュ型モデル事業

362万円  
産後ケア利用者のさまざまなニーズに対応するため、産後の母親が温泉などの宿泊施設でリフレッシュできる、心身の休息に特化した産後ケアモデル事業を実施します。

子ども医療費助成の拡充

2260万円  
子どもたちの健やかな成長を支えるため、令和8年4月より子ども医療費助成の対象を15歳到達年度末までから18歳到達年度末までに拡大するとともに、5000円の利用者一部負担金を廃止するため、システムの改修などを行います。



令和6年度にリニューアルした科学館4階展示室。4月には3階展示室「生活と科学」がリニューアルオープンします

その他の主要事業

- 特別支援教育推進 8億9687万円
- 仙台自分づくり教育推進 7880万円
- ICT教育推進 28億9352万円
- 確かな学力育成 3億357万円
- 学都推進 309万円
- 学校教育施設整備 196億9495万円

市が取り組む重点分野と主要事業について紹介します